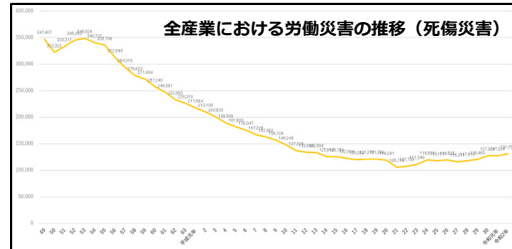


なぜ労働災害はゼロにならないのか？

製造業の現場において、不断の安全活動にもかかわらず、厚生労働省の統計では、近年、死傷数が微増しています。

労働災害が起こる原因の5割は、**意図的な不安全行動**にあると言われ、管理者を悩ませている状況です。



令和4年 労働災害発生状況 厚生労働省

事故を未然に防ぐには

不安全行動の予兆をつかみ、管理者が作業者の一人一人に、具体的な行動レベルの**指導**を行えるようにすることが必要不可欠です。

順位	結果の活用で困ったこと	活用の進捗	割合
1位	個人結果をもとにした本人への指導方法がわからない	順調ではない	80%
		あまり順調ではない	35%
2位	部下を指導する管理者への教育の方法がわからない	あまり順調ではない	28%
		まあまあ順調である	19%
3位	教育を担当する適任者がいなかった	あまり順調ではない	35%
		順調ではない	20%

令和5年3月 安全行動調査の効果的な活用支援手法の検討 中央労働災害防止協会から作成

「安全の可視化」のご案内

安全の可視化は、**安全ウェルビーイング**により、作業者が安全を守ろうとする力を「**発揮できる状況にあるか**」を計測し、事故を未然に防ぐ職場作りをお手伝いするサービスです。

安全の可視化により、以下の項目について、会社全体、部署や作業役割による偏りがわかり、手当の必要な部署・人、作業環境・作業の改善の必要性がわかります。また、各ウェルビーイングの状況から、何をどのように改善すべきか、改善の方向性が明らかになります。

- リスク低減方策の有効性（安全）
- 不安全行動の予兆（安全）
- 製造工程や機械を変える際の心理的負担（安心）

- 本サービスでは、Webまたは回答用紙に記入して頂きます。
- 設問は23問で、回答は選択肢です。
- 所要時間は、約10分です。
- 回答は右表の「**産業安全ウェルビーイングの7軸**」で分析します。

■ ウェルビーイングとは何か？

世界保健機関（WHO）が「身体的・精神的・社会的に良い状態が続くこと」と定義しています。本サービスでは「能力を発揮できる状態」と解釈し、主観的ウェルビーイングと心理的ウェルビーイングに着目しています。

■ なぜウェルビーイングなのか？

ウェルビーイングの高い職場は下記の特徴があるとされ注目されています。

- ・ エネルギーレベル、集中力、クリエイティビティが増し、生産性が向上する。
- ・ 職場の人間関係は個人のウェルビーイングに影響されるので、個人のウェルビーイングが高いと人間関係がよくなる。
- ・ 仕事にやり甲斐が感じられ、仕事に集中している。



安全の可視化からわかること

安全の可視化は、会社全体・部署・個人の3つ視点で分析を行い、グラフにより傾向を一目瞭然に可視化しながら、状況わかりやすく説明するレポートを提供します。

■ 会社全体について

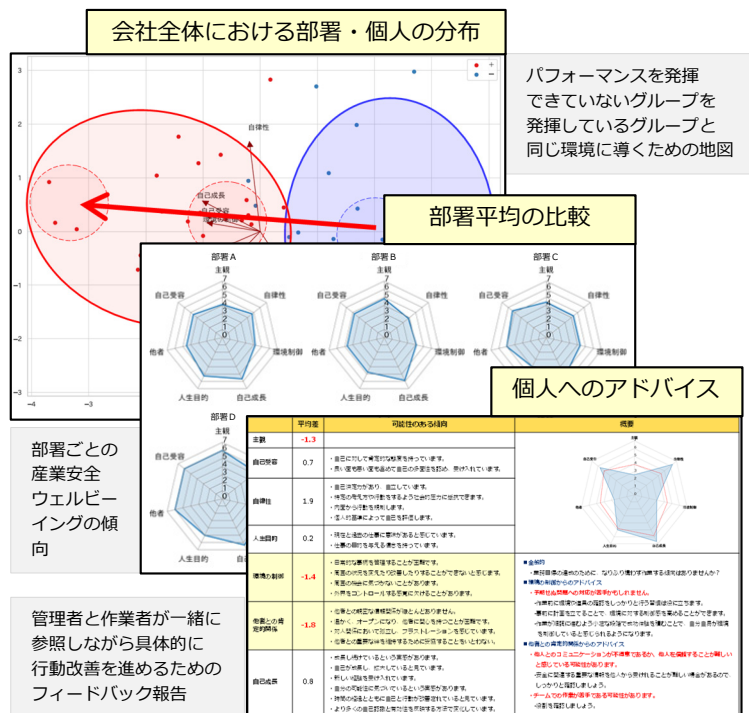
- 業界平均と御社全体の平均の比較
- 手当が必要な部署の把握

■ 部署／職場について

- 部署や役割ごとのウェルビーイングの傾向
- 職場環境が作業者に与えている影響の予測
- 安全を創りあげるための改善策
- 手当が必要な作業者の把握

■ 個人について

- 職場における可能性のある傾向
- 作業を安全に行う上で配慮すること
- 個人的な精神面の問題を解消するための方策



「安全の可視化」から「職場の最適化」へ

「安全の可視化」により明確になった課題について、お客様の職場に合わせた最適な改善計画をご提案し、関係者を巻き込み協力を得ながら、改善を実行していくお手伝いをします。

施策	働きかけ	最適化の実施内容の例	
組織レベル	機械	ISO 12100 の3ステップで適切にリスク低減しているかを診断します	
		機器の改善が必要な場合に改良案を作成します	
	作業環境	作業者ファーストの空間デザイン、効率の高い作業環境を提案します	
		新しい作業空間の効率性・安全性を検証する実証実験を計画します	
	作業	作業行動の測定	望ましいパフォーマンスを発揮している部署の作業行動を測定します（作業動画の定量解析）
			パフォーマンスを発揮できていない部署の作業行動を測定します（作業動画の定量解析）
		改善計画の立案	行動分析学に基づき作業行動のABC分析を行います ※ 分析結果に基づき改善計画を立案します
		改善実施の支援	管理者による作業員への面談指導の仕方を支援します 改善サイクルを確立できるように支援します
	関係者	業務・プロジェクトを進める上で必要不可欠な、関係者への説明と社内合意の形成、関係者の巻き込みを支援します（資料作成や会議の進行促進）	
	個人レベル	作業内容に基づき、作業中に注意すべきことをアドバイスします	
個人的な精神面の問題がある場合には、信頼のおけるカウンセラーを紹介します			

※本サービスは、長岡技術科学大学・システム安全専攻・産業行動分析学研究室の北條先生の協力により実施しています

